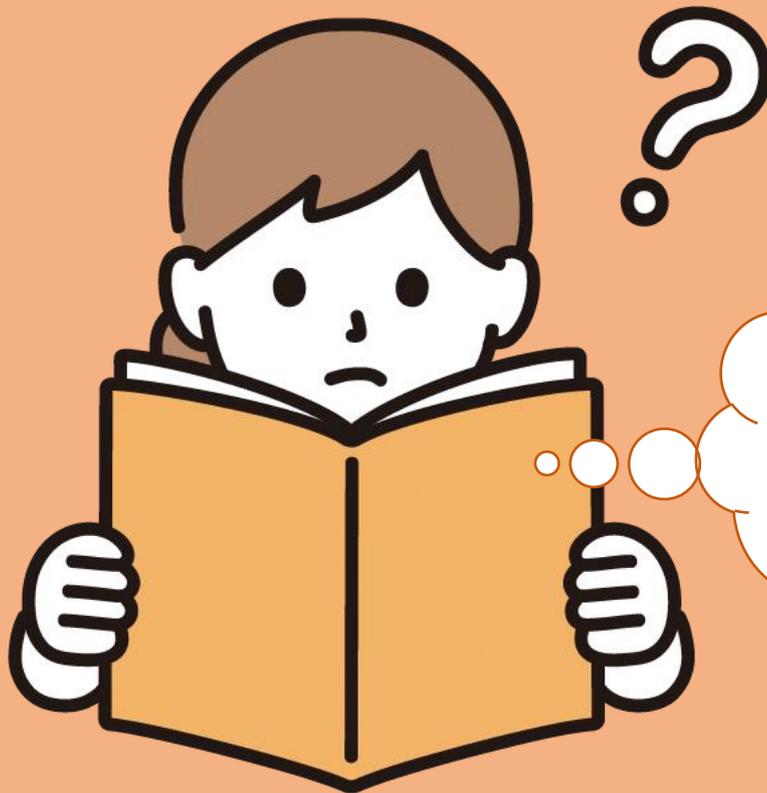


Special Needs Education

特別な指導内容

自閉症編



何をどうやって
指導するの？

New!!!

令和3年6月文部科学省初等中等教育局特別支援教育課から出された最新の「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」等を参考に作成!!

自閉症のある子供に対する特別な指導内容とは？

自閉症とは、①他者との社会的関係の困難さ、②言葉の発達遅れ、③興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする発達の障がいといわれています。自閉症のある子供に対して、どのような指導内容があるかみていきましょう。



ア 他者との関わりの基礎に関すること

他者とのかかわりをもとうとするが、方法が十分に身に付いていない場合がある。



- ◆身近な教師との関わりから、少しずつ教師との安定した関係を形成することや、やりとりの方法が定着するように、方法を大きく変えずに繰り返し指導するなどして、相互に関わり合う素地を作るようにする。

嬉しい気持ちや悲しい気持ちを伝えにくい場合がある。



- ◆本人の好きな活動などにおいて、感情を表した絵やシンボルマーク等を用いながら、自分や他者の気持ちを視覚的に理解したり、他者との気持ちの共有を図ったりする指導を行うことで、信頼関係を築くことができるようにする。



イ 情緒の安定に関すること

他者に自分の気持ちを適切な方法で伝えることが難しい場合に、自分を叩いてしまうことや、他者に対して不適切な関わり方をしてしまうことがある。



- ◆自分を落ち着かせる場所に移動して、慣れ親しんだ活動に取り組むなどして落ち着きを取り戻すような経験を積み重ねていながら、その興奮を静める方法を知ることや、様々な感情を表した絵カードやメモなどを用いて自分の気持ちを相手に伝えるなどの手段を身に付けられるように指導する。



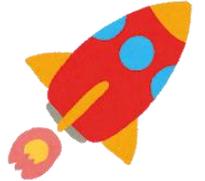
ウ 状況の理解と変化への対応に関すること

日々の日課と異なる学校行事や、急な予定の変更などに対応することができず、混乱したり不安になったりして、どのように行動したらよいか分からなくなることがある。



- ◆事前に予想される事態や状況を前もって伝えたり、事前に体験できる機会を設定したりするなど、状況を理解して適切に対応したり、行動の仕方を身に付けたりすることができるように指導する。

周囲の状況に意識を向けることや、経験したことを他の場面に結び付けて対応することが苦手なため、人前で年齢相応に行動する力が育ちにくいことがある。



- ◆行動の仕方を短い文章にして読むようにしたり、適切な例を示したりしながら、場に応じた行動の仕方を身に付けられるように指導する。

特定の動作や行動に固執したり、同じ話を繰り返したりするなど、次の活動や場面に意識を切り替えることが難しい場合がある。



- ◆特定の動作や行動等を無理にやめさせるのではなく、本人が納得して次の活動に移ることができるように段階的に意識を切り替えていくように指導する。

エ 障がいの特性の理解と生活環境の調整に関すること

大きな音がしたり、予定通りに物事が進まなかったりすると、情緒が不安定になることがある。



- ◆自分から別の場所へ移動したり、音量の調節や予定を説明してもらうことを依頼したりするなど、自ら刺激の調整を行い、気持ちを落ち着かせることができるように指導する。

オ 感覚調整の補助及び代行手段の活用に関すること

聴覚に過敏さが見られ、特定の音を嫌がる場合がある。



- ◆音源を遠ざけたり、イヤーマフやノイズキャンセリングヘッドホン等の音量を調節する器具を利用したりするなど、自分で対処できる方法を身に付けるようにする。また、その特定の音が発生する理由や仕組みなどを理解し、徐々に受け入れられるようにしていく。

カ 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること

抽象的な表現が意味する内容を理解することが困難な場合に、その内容を具体的に理解することが難しいことがある。



- ◆指示の内容や作業手順、時間の経過等を視覚的に把握できるように教材教具の工夫を行う。手順表などを活用しながら、順序や時間、量の概念等を形成できるようにする。



興味関心のある事柄に注意が集中する傾向があるため、活動等の全体像が把握できないことがある。



- ◆一部分でなく全体を把握することが可能となるように、順序に従って全体を把握できるようにする。

提示されたものを注視しようとする、教師の師範を受け止めて模倣しようとする、他者からの指示を理解して応じようとするのが苦手なことが多い。



- ◆集団での活動場面においては、一斉指示及び説明のあと、個別に指示及び説明を行うなど、子供の主体性を確保し、意欲を喚起しながら、活動に取り組めるようにしていく。

キ 他者の意図や感情の理解に関すること

言葉や表情、身振りなどを総合的に判断して相手の思いや感情を読み取り、それに応じて行動することが困難な場合や、言葉を字義通りに受け止めてしまう場合があるため、行動や表情に表れている相手の真意の読み取りを間違えることがある。



- ◆生活上の様々な場面を想定し、そこで相手の言葉や表情などから、相手の立場や相手が考えていることなどを推測するような指導を通して、他者と関わる際の具体的な方法を身に付けることができるようにする。

ク 生活習慣の形成に関すること

極端な偏食や同じ衣服を着続けるなど強いこだわりを示す場合や、自分の体調の変化に気がにくく、無理をしてしまうこともある。



- ◆直面している困難さの要因を明らかにした上で、保護者と学校が連携して無理のない程度の課題から設定していく。



◇自閉症のある子供の教育的ニーズを整理する際、子供に対する特別な指導内容を把握することが必要です。また、ア～クは代表的な例を挙げており、子供の実態によってその他の特別な指導内容も十分に考えられます。

参考：「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」
(文部科学省初等中等教育局特別支援教育課、令和3年6月)

参考：「小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック」
(福島県特別支援教育センター、平成31年3月)



Special Needs Education

